

兵庫県におけるクビボソコガシラミズムシの最近の採集記録と生態的知見

脇村涼太郎¹⁾・下野誠之²⁾・森 正人³⁾

はじめに

クビボソコガシラミズムシ *Haliphus japonicus* Sharp, 1873 は, コガシラミズムシ科 Haliplidae ヒメコガシラミズムシ属 *Haliphus* に属する水生甲虫である。植物が豊富な環境に生息し, 水質が良好なため池の浅い湿地や, 水田脇の流れの緩やかな水路, 河川のよどみなどで見られるとされる (中島ほか, 2020)。環境省レッドリスト 2020 では「情報不足」のカテゴリーに評価されており, 保全に資する生態的な知見や分布状況の把握が望まれている (環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2020)。

筆者らは, 兵庫県姫路市の東部を流れる市川 (いちかわ) の下流域において本種の生息を確認しており, 採集時に得られた興味深い生態的知見と併せて報告する。

採集記録

3exs., 兵庫県姫路市兼田, 25. XII. 2020, 脇村採集, 森保管。

5exs., 同所, 29. XII. 2020, 脇村採集, 保管。

5exs., 同所, 同日, 下野採集, 保管。

12exs., 同所, 同日, 森採集, 保管。

兵庫県における本種の記録

兵庫県では, 尼崎市, 西宮市, 神戸市, 三木市, 氷上郡 (現丹波市氷上町) など県中南部地域における古

い記録があるものの (谷口, 1944; 山本, 1952; 大倉, 1955; 高橋, 1997), 1992 年に美囊郡吉川町 (現三木市吉川町) で得られた 1 個体 (高橋, 1997) を最後に記録が途絶えている。

市川における生息環境

採集場所は市川下流域の河川内で, 土砂の堆積等によりワンド状の環境となっている。植生はほとんどなく, 底質はこぶし大程度の石の上に泥が堆積している状態であった (図 1)。採集はワンド内に沈んでいる流木やワンド出口付近の河川岸辺付近の流木を拾い上げ, その表面をチェックすることで動き出す個体を見つけることが出来た (図 2)。条件の良さそうな流木 1 本から 5 頭が得られることもあり, 明らかに流木の樹皮下や窪みに意識的に潜んでいると思われる。このような採集方法はある種のヒメドロムシの採集に有効な方法であるが, 実際に当日もヨコミゾドロムシ *Leptelmis gracilis* Sharp, 1888 やイブシアシナガドロムシ *Stenelmis nipponica* Nomura, 1958 が同時に観察された。

河川における本種の記録

河川と本種の関係についてはいくつかの報告がある。新井 (2005) は埼玉県深谷市の利根川河川敷において本種を記録 (8 月の記録が多い) しており, 本種の好む生



図 1 姫路市市川下流の生息環境。



図 2 流木表面のクビボソコガシラミズムシ。

¹⁾ Ryōtarō WAKIMURA 東海大学生物学部 ²⁾ Masayuki SHIMONO 環境科学大阪株式会社 ³⁾ Masato MORI 環境科学大阪株式会社

息環境として、河川流域の止水域、水底より湧水の存在、水辺に多くの草本が生育、日当たりが良くない、浅い場所を好む、水底は泥であるがヘドロではない、等々をあげているが、そのいくつかは今回の確認環境にも当てはまる。また、中西 (2011) は滋賀県彦根市犬上川において河岸の植物根際から採集 (8 月)、金尾 (2013) は滋賀県東近江市の公園内水路での採集事例 (9 月)、渡部 (2015) は石川県能美市手取川本流の植物の根際からの採集事例 (6 月)、岩田・内田 (2020) では河川敷にある大型ワンドの植物が多い地点、河畔林内にある伏流水で形成された小規模な池での採集事例 (5 月, 7 月, 10 月) を報告している。これらのことから、本種の河川における生息環境として水質が良好な流水域もしくは植生が豊富な河川内の止水域であることが挙げられる。

おわりに

今回本種を発見した場所は、コイ、ライギョ、ブルーギル、ウシガエル、アメリカザリガニなども生息しており、植生はほとんどなく、水質についても決して良好な河川ではない。また河川の増水の影響も受けやすい不安定な環境でもあり、本種の生息環境としてイメージしにくい環境であるが故に、これまで十分な調査が行われていなかった可能性がある。また、採集時期の冬季 (12 月) も我々には意外な時期であったのだが、実際には越冬しているような状況ではなかった。あまり先入観を持たないことも必要ではないだろうか。

今後、県下や各地において本種が追加記録されることを期待したい。

謝辞

本稿を作成するにあたり、中島 淳氏には問い合わせに応じていただいた。金尾滋史氏、中西康介氏、久末遊氏には文献についてご教示いただいた。黒田宏一郎氏には調査に同行していただいた。末筆ではあるが、厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 新井浩二, 2005. 埼玉県利根川流域のクビボソコガシタミズムシ. 寄せ蛾記, (118):17-23
- 岩田泰幸・内田大貴, 2020. 荒川中流域の 1 地点における埼玉県絶滅危惧種の水生甲虫の生息状況. 埼玉県立自然の博物館研究報告, 14:53-58.
- 金尾滋史, 2013. 滋賀県東近江市におけるクビボソコガシラミズムシの記録. Came 虫, (171):12
- 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室編, 2020. 環境省レッドリスト 2020 の公表について. <http://www.env.go.jp/press/107905.html> (2021 年 8 月 30 日参照)

- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版, 20pp.
- 中西康介, 2011. 滋賀県におけるクビボソコガシラミズムシの記録. Came 虫, (159):6
- 大倉正文, 1955. 原色日本昆虫図鑑甲虫編 増補改訂版. 保育社
- 高橋寿郎, 1997. 兵庫県産水棲甲虫目録 (1). きべりはむし, 25(1):2-10.
- 谷口和義, 1944. 阪神地方の小頭水虫類. 昆虫世界, 48(562):114
- 渡部晃平, 2015. 石川県で採集した水生昆虫の記録 (2015). とっくりばち, 83:35-40
- 山本義丸, 1952. 兵庫県 (丹波国) 氷上郡より記録する水棲甲虫. Ento. Investigation. (中国地方昆虫誌), 2(1):13-18